

# 算数の楽しさ

北海道算数数学教育会  
小学校部会 札幌支部  
平成11年11月12日発行

No. 98

## 支部大会を開催するにあたって

北海道算数数学教育会

札幌支部副支部長 大瀧 政 弘

(札幌市立厚別北小学校校長)

古くは北数教冬の大会として親しまれ、校長先生による授業公開など、常に時代の教育課題を真摯に受け止め、新たな提案をしていただいたこの研究大会も、いくたの変遷を辿りながら今日のような支部研究大会として定着し、確かな実践の積み重ねの中で31回を迎えています。

私事になって恐縮ですが、かつて、私も第14回の大会で授業をさせていただきました。3年生の「重さ」の単元でしたが、直接比較できない場面の設定、導入における素材の吟味、そして、児童の主體的な活動の工夫等に苦慮したことが昨日のこのように思い起こされます。

新しい学習指導要領が告示され、平成14年度からの完全学校5日制に向けて、来年度からは移行措置が始まるという過渡期にあって、今研究大会はこれからの算数教育を展望する上でも非常に意義ある大会と受け止めています。

新学習指導要領における算数科の目標等については、これまで色々紹介されてますので詳述ませんが、私は改定の基本方針で述べられている3つの柱の中で、「楽しさと充実感のある学習」について特に注視しています。

解説の一部を抜粋しますと、算数の楽しさ・充実感は算数の内容や方法の本質に関わることである。また、自らの主體的な活動によってよくわかったときに学ぶことの楽しさが感じられ、自分で実際に作業したり体験したりして算数を学習することも楽しさの内実である。さらに、知識や技能が確実に身に付いたり、数学的な考えを生かし工夫して解決したときに楽しさや充実感を味わうことができる。と述べられています。今さらと思う

反面、研究の具体化を追い求めるあまりに、ともすれば私たちが見逃し、忘れがちになりそうな学びの根源を指摘しているものと受け止めます。

このような改定の趣旨を背景に、本会では、「算数科の問題解決力を高める授業の創造」の研究主題のもと、「なるほど」「すばらしい」という感動のある授業像をえがき、また、「算数は楽しい」「算数は面白い」「算数は素晴らしい」と感じられる子どもの姿を求めながら研究を進めてきました。研究内容は、これまで大切にしてきた児童の自力解決に視点を当て、「問い」の醸成、「集団の交流・検討活動」そして、自力解決を支える評価活動の3つの窓から主題に鋭角的に切りこみ、研究の焦点化を図ろうと考えています。

各学年部会では、5月以降数度の部会を開催し学年児童の発達段階を考慮に入れ、研究の具体化を図ってきました。夜遅くまでの話し合いの中から、これまでの実践的な取り組みに確かな手応えを感じていることと思います。

本大会では、各学年部会がこれまでの実践に基づき、上記3つの視点を明確にした授業提案がなされるわけですが、多くの会員の皆様の率直な意見交流の中で、授業で問われる3つの内容について活発に論議し、明日からの実践につながる多くの財産が得られる充実した大会になることを強く期待したいと思います。

終りになりましたが、今研究大会において貴重な授業を公開していただく各学年の授業者の先生そして、学校行事など忙しい中、快く会場を提供しご準備いただいた会場校の校長先生はじめ諸先生に深く感謝申し上げます。